

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和2年2月10日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670103268
法人名	社会福祉法人恩賜財団済生会支部鹿児島県済生会
事業所名	グループホーム武岡ハイランド
所在地	鹿児島県鹿児島市小野町2327-2 (電話) (099) 283-7231
自己評価作成日	令和元年12月4日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和2年2月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・開設時より一貫して「日々の暮らしを安心安全に笑顔で過して頂きたい」そんな思いでスタッフ自らが入りたいと思い、家族や知人に自信を持って勧められるホームを目指しています。

・認知症への理解を深めるとともに、個別支援にも重点を置き、その方に合った脳活性のレクリエーション・転倒防止のリハビリ・管理栄養士の指導を受けたバランスの摂れた食事・訪問歯科診療や訪問マッサージなど必要に応じて提供しています。又、その方の生活スタイル(生活歴など)に合わせたケアに取り組み、個別性を重視すると共に協働性も取り入れ、自立支援に向けてゆっくりとした時間と空間の中でその日一日を笑顔いっぱいでもらせるよう支援しています。

・地域行事に出来るだけ参加すると共に、家族交流会を頻回に実施し家族との交流を図りながら共に見守っています。

・景観の良い環境と清潔で明るい空間を提供しています。

・外部講師による臨床美術や音楽療法を取り入れ脳活性を行う事で、いきいきした時間を過して頂けます。

・職員のメンタルヘルスへの取り組みを行い、スタッフ自ら笑顔で働きやすい環境を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは静かな自然に囲まれ、その先には桜島が望め、穏やかにゆったりと暮らせる環境にある。協力医療機関や訪問看護との連携を密に図り、特に利用者の健康管理と安全確保に重点を置いて、日常のケアの充実と管理者と職員が一体となって取り組んでいる。

校区の運動会や地域の夏祭り、秋祭り、文化祭などに出かけ、地域の踊り等のボランティアや中・高校生のサマーボランティア、介護専門学校の実習生を受け入れて積極的に交流している。また、地域の方々の相談への対応のほか、法人としても地域でのボランティア養成にも取り組むなど地域と協力関係を築いている。

管理者や職員は利用者の思いや希望も大切にしている。家族会の際には利用者と一緒に外食に出かけ、年間の計画に沿って地域の行事や季節の花見、初詣、水族館などに出かける際には、家族と共に地域のボランティアの方々にも協力してもらい、リフト車や車いすを使用しながら利用者を楽しんでもらっている。

管理者自身が職員の思いや意見をよく聞き取ることが基本にして、日常の声かけを工夫するなど、相談や意見、提案を出しやすい雰囲気作りをしている。計画的に研修の充実を図り、キャリアシートも活用しながら定期的に個別面談をするなど、職員とよく話し合いながら業務改善を進め、利用者がゆったりと楽しく、穏やかに過ごせるような環境づくり、また、職員が働きやすい就業環境作りなどに取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	ホーム内、事務所に掲示し常に確認できるようにしている。年度末に達成度・反省・次年度の目標等話し合う事で理念についての理解や共有に努めている。	法人及びホームの理念に沿って年間目標も設定し、利用者が家庭的な雰囲気の中で個々の能力に応じて笑顔で自立して暮らせるように日々のケアに取り組んでいる。理念は玄関や事務所、ホールへの掲示でいつでも確認でき、年度末には目標の達成度も評価して理念の意義を振り返っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域内の行事等に積極的に参加し、地元の方々との交流に努めている。又、ケアハウス・サ高住の住民やディサービス利用者と頻回に行き来し散歩等で交流を図っている。	散歩で出会う地域の方とあいさつや会話を交わしている。また、関連施設の利用者との交流の機会も多い。地域の踊り等のボランティアや中学生・高校生のサマーボランティア、介護専門学校の実習生の受け入れのほか、地域の方々の相談への対応、校区の運動会や地域の夏祭り、秋祭り、文化祭などにも出かけている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	年4回発行している広報誌や機関紙で情報提供している。訪問や電話での相談に随時対応している。運営推進会議では事例紹介を通じて認知症について話し合っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎月の現状報告、評価や事例紹介等を通じて意見、助言や要望を頂いている。スタッフ会議で情報を伝達共有し、業務の改善やサービスの質の向上に活かしている。	会議は利用者や家族、地域住民、ボランティア連絡協議会、地域包括支援センターや消防署・警察署の職員等が参加して定期的に開催されている。写真付きの資料を基に、ホームや利用者の現況や行事・事故等の活動報告のほか、意見や情報交換が行われ、得られた委員からの助言や提案を職員が共有して、提供するサービス向上や業務の改善、避難訓練等に役立てている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括の職員と運営推進会議等を通し密に連携を図っている。研修や説明会に参加し助言を頂き協力関係を築くよう取り組んでいる。	市の担当者とは電話や訪問で、運営や利用者の状況について確認や相談を行い連携を図っている。また、市主催の研修や各種の説明会、グループホーム連絡協議会などに参加して、情報や意見交換も行っている。地域包括支援センターの職員には運営推進会議で意見をもらい、介護相談員からの助言や提案も得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、隔月で話し合いを行っている。また、年間研修計画で身体拘束をしないケアの実践について学んでいる。施錠に関しては立地環境のため安全面に配慮しながら取り組んでいる。入所時、ご本人様・ご家族の方に説明し同意を得ている。	年間の研修計画に沿って高齢者の権利擁護や虐待防止、身体拘束に関する勉強会を実施して、職員の理解を深めている。特に言葉による行動制限や気持ちの押さえつけがないように、日々のケアでも繰り返し確認している。利用者が外出しそうな様子を察知した際は職員と一緒にドライブに出かけている。また、身体拘束廃止委員会を2か月に1回開催して、センサーマット使用の要否など、個々の具体的な事例について意見を交わしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間研修計画で高齢者虐待防止法について学んでいる。スタッフ会議で伝達研修を行い全職員が理解を深めている。日頃の介助や言葉使いに関しても定期的に検討し見過ごされないよう注意を図り防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間研修計画で権利擁護について学び、スタッフ会議時に伝達研修を行い全職員が周知するよう取り組んでいる。ご家族の方の相談に応じたり資料を配布している。実際に成年後見人制度を利用されている方については各関係者と密に連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や退所時、契約内容の変更などについては重要事項説明書や事業所の方針に基づき利用者様やご家族の方の不安や疑問点について理解・納得を得られるよう十分な説明を行い同意を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に利用者様・ご家族様との信頼関係を築くように努めており、意見を表出できるよう支援している。又、毎年実施している満足度調査や市からの相談員派遣の結果を運営に反映させている。	管理者および職員は、利用者や家族との信頼関係を大切に考えて日々支援に取り組んでいる。利用者とは日々の暮らしの中で思いや意見の把握に努め、家族とは電話や来所時、家族会の際に話しやすい雰囲気を作り多くの意見をもらっている。家族アンケートや介護相談員の助言も含め全職員が内容を共有し、必要な対応や報告ができるようにしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に職員からの意見や提案を聞く機会を設けている。意見を検討し業務改善等に反映させている。又、毎年の契約更新時個人面談を行い聞き取りを行っている。	管理者は、申し送りや日々のミーティング、毎月の職員会議のほか、日常職員と接する中で意見や提案を把握できるように努め、毎年個別面談も実施している。また、キャリアシートも活用して、利用者へのサービス向上や業務改善、職員の育成・資格取得の推進、働きやすい職場環境づくりなどにつなげるように取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、職員の個別面談やキャリアシート・アンケート調査を実施し状況把握に努めている。又、年2回の健康診断や予防接種等職場環境・条件の整備に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	法人内の年間研修計画があり、研修を受ける機会を確保している。又、職員のケアや力量に応じ法人外の研修に参加し伝達研修を行っている。介護福祉・社会福祉士等の資格取得に向けて取り組みを勧めている。		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	グループホームの連絡協議会に参加し研修会や説明会で情報交換など行い連携を図っている。法人内のグループホームとは定期的に交流・意見交換しサービスの質の向上への取り組みを行っている。他施設との連携も図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前面談時にご本人とご家族の方へ今までの生活歴・これからの生活での不安や要望等を詳しく聴き取り説明を行う事で不安の解消に努め、より良い環境で生活ができるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望や問題点などに関してはその都度、ご本人様・ご家族の方と相談しながら苑でできる事とできない事を説明しながら誠実に関わり信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族の方の思いを受け止め今の状況に応じた支援を提案している。又、必要時は他事業所へのサービス利用の調整依頼等の代行対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の家事・行事を通してご本人様の知恵や経験を学びながら支え合い、家族のように喜怒哀楽を共に行う関係を築いている。趣味や興味を会話の中から引き出し主体的に生活できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や定期的に近況について報告し、ご家族様にも状況を理解して頂いている。家族交流会を頻回に実施し、情報交換を密に行い一緒に支える関係作りを築くように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の支援などで墓参りや受診や美容院・外食など通っている。又、在宅時に利用していたディサービスや入居していたケアハウスの住民との交流が途切れないように行き来ができるよう支援している。	関連施設の利用者にも馴染みの方が多いので、それらの方々との交流とともに、家族及び友人・知人の訪問が多くゆったりと過ごせるように配慮している。また、家族の協力を得ながら受診や帰宅・墓参り・美容院・外食等も可能な限り勧めている。電話の取り次ぎや年賀状・暑中見舞いの作成、カラオケ等の趣味も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	趣味や生活歴等を考慮し座席など提案している。自由に好きな場所で家事や談話ができる環境作りを行っており孤立しないよう調整に努めている。又、出来る方が出来ない方の手伝いを行い互いに支え合う関係も出来ている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院による退所者の場合は面会に伺い、必要とする場合はご本人様・ご家族の方と継続的に関わり、各関係者と連携図りながらフォローし相談や支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方の想いを引き出せるように、寄り添ったケアの中で会話や表情から隠れた思いを推し量り、意向の把握に努めている。ご家族の方や職員からの情報を参考に本人本位に検討している。	利用者とはホールでの日常会話や入浴時の対話のほか、しぐさや表情から思いや希望をくみ取るように努め、申し送りノートや日々のミーティング等で内容を共有して対応について意見を交換している。加えて家族とも話し合いながら、本人の希望に添うように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談時、ご本人・ご家族の方から聞き取りを行い、主治医やケアマネ・サービス担当者からの情報把握に努めている。又、入所後のスタッフからの新たな情報を随時把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の暮らし方や身体状態から生活スタイル（食事・排泄・生活習慣等）を知り、ご本人様の出来る事、している事、出来ない事を総合的に把握するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様・ご家族の方と定期的にカンファレンス・モニタリングを行っている。職員・訪問看護師・主治医からの意見を参考に担当者会議などで現状に即した介護計画を作成するよう努めている。	介護計画は利用者本人や家族と話し合っ意向や希望を聞き取り、職員の意見や気づきのほか、主治医や看護師など関係者からの意見も取り入れて利用者本位のものを作成している。支援の経過は引き継ぎ帳や個別ファイル、業務日誌等に具体的に記述し、様々な変化に対応して計画の見直しや修正を適切に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルを用意し、毎日の生活状態やバイタル測定、食事と水分摂取量（必要者）、排泄の時間と回数、心身の状況等を記録している。又、必要に応じて引き継ぎ帳を利用しながら、その都度確認し、現状に即した介護計画となるように見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院・買い物・理美容等はご本人様・ご家族の方の希望に柔軟に対応し、訪問診療・往診・出張美容室等の利用等行っている。ご本人様・ご家族の方の状況・要望に応じて柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 ハートワンの暮らし力を生かしている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	協力医療機関へ適時相談し連携を図っている。又、地域の警察や消防等の協力支援体制があり安全に暮らせるよう支援している。民生委員と運営推進会議を通して密に情報交換している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様・ご家族の方の意向を尊重している。受診は基本、ご家族同行をお願いしているが困難時は職員で支援している。訪問診療も多く利用しており、多くの医療機関との関係を密に図っている。	一人ひとりの利用前の受診状況は十分把握し、本人や家族の希望するかかりつけ医の訪問診療を適切に支援している。利用者それぞれのかかりつけ医並びに家族と話し合いや情報交換も十分になされている。訪問看護師とも連携して健康管理に努め、協力医療機関により緊急時にも適切な医療が受けられる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と医療連携を図り、定期的に健康管理を依頼している。又、毎日の健康チェック時の異常時や必要時は随時相談できる体制を整えている。緊急時等同一建物内にあり、早急な医療処置が可能である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の医療関係者と情報交換すると共に定期的に面会し状態観察し励ましている。早期退院が可能な際は状況に応じ訪問看護師と連携を図り医療処置を行いながらホームでの生活が送れる体制を作っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時にご本人様・ご家族様へ「重度化した場合における（看取り）指針」の説明し同意を得ている。又、必要に応じてご本人様・ご家族様へ随時説明を行うと共に主治医や訪問看護師等と密に連携を図り今後の方針について情報の共有を図っている。	重度化や看取りに対する指針を定め、契約時に利用者と家族に説明し同意を得ている。様々な変化の都度家族と十分に話し合い、その意向を最大限大切にすると共に、医師や看護師との連携を密にして、緊急時には必要な支援を実施できる体制を整えるなど、家族との信頼関係を築けるように努めている。看取りの事例もあり、マニュアル整備のほか関連する研修も実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の殆どが普通救命修了書を習得している。管理者も救命普及員の研修を習得しているため随時職員へ伝達研修をし実践力を身に付けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の協力を得て防災訓練を入居者の方と共に行っている。苑内でも自主訓練を計画し全職員が避難方法を周知出来るよう取り組んでいる。又、法人内でも緊急連絡網や協力体制を築いている。	年2回消防署の協力を得ながら、同じ建屋の関連施設と合同で、夜間想定も含めた消火訓練及び避難経路の確保にも配慮した避難訓練を行っている。スプリンクラーや自動通報装置、消火器、自家発電機等の設置や食料・飲料水の備蓄も問題はなく、法人内の関連施設の職員等との緊急時対応の連携も図られている。関連する救命講習や研修も実施している。地域に対して災害時の避難場所も提供できるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であり人格者として尊重し日々の声かけや支援について努めている。スタッフ会議で尊厳について話し合い全職員がプライバシーや誇りを損ねない支援が行えるよう努めている。	利用者の人格を尊重し、トイレ誘導や入浴・食事等の日常のケアに際して、尊厳やプライドを損ねるような言葉かけや対応を行わないように、わかりやすい言葉遣いやさり気ない対応を心掛けるなど、会議等を通じて方法を共有して支援に取り組んでいる。利用者の個人情報記録や居室の保護にも十分に配慮がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方の分かる力に応じて開かれた質問や閉じられた質問等を取り入れゆっくりとした時間の中で自己決定ができ、納得して生活ができるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、ご本人様のペースを尊重しながら、その日の体調・表情・希望などを参考にゆっくり過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	ご本人様の趣好に応じ出来ない方は一緒に衣類を選んでいる。外出時や訪問理容時はご本人様・ご家族の方の希望に添って化粧や髪を整えるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の意見を参考に季節感を取り入れ献立を作成している。能力に応じ調理・盛り付け・片づけ・味見等行っている。静かな音楽を流しながら職員と一緒に見守りながら食事を取っている。	日常会話で把握できた利用者の好みを献立に反映させ、利用者した後片づけなど、できることは手伝ってもらい、会話しながら和やかに食事できるように工夫している。また、敬老会やクリスマス会・誕生会等の特別食のほか、家族会での外食、ソーメン流し、弁当持参の花見、手作りおやつなどの工夫で利用者の楽しみにつなげている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士の確認を得て献立を作成している。食事・水分摂取を職員間で把握し、必要な入居者の方に関しては記録を取り個別で支援するよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアへの声かけ・介助を確実に行っている。研修に参加し伝達研修を行い全職員が肺炎防止のための口腔ケアの重要性を理解している。訪問歯科診療を依頼し必要時に助言を得ている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を作成し個別の習慣や時間を把握している。必要な入居者の方はトイレに案内し、自立に向けての取り組みを行っている。	利用者の見守りや排泄チェック表を活用して個々のパターンを把握し、早めにさり気なくトイレに誘導するなど羞恥心・不安軽減に努めている。リハビリパンツやパット等排泄用品の使用など個々に合わせた工夫をプランにも組み込み、言葉使いをはじめ本人の誇りやプライバシーを損ねないよう丁寧な対応に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の状況を記録しており、個別に応じて食材の工夫・オリゴ糖使用や運動・マッサージ等で予防に取り組んでいる。必要時は主治医へ相談し服薬にて調整を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	毎日入浴が出来るよう用意している。時間帯は一応決めているが、ご本人様の希望や必要性を考慮し、ゆったりと入れるように支援している。	特殊浴槽も設置され基本は週3回、利用者の健康状態や安全面をはじめ、湯温や時間帯、脱衣所の室温などに配慮して、本人の好みや習慣に沿って、ゆったりと会話しながら入浴が楽しめるように支援している。入浴をためらう場合には、職員の交替や時間帯も変更するなど利用者本位の支援を心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中に活動を提供し生活リズムが整えるよう努めている。空調や照明・清潔なリネン等を整え、いつでも好きな時間に気持ち良く安らぎの持てる環境を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ほぼすべての方が薬局の居宅管理指導を受けておられ、服薬の管理を行っている。スタッフも服薬の内容を確認できるように薬情の確認を行っている。服薬時は2名で3回確認の徹底を行い、症状の変化時は早期に上司・看護師・主治医の指示を仰いで対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味を参考に家事やレク等の提供を行っている。得意分野への提供を行い、楽しみや自信に繋がる様に支援している。苑外レクや外食等入居者の方々と相談しながら決定し気分転換を図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天候に応じ可能な限りご本人様の希望に添った時間に散歩や買い物支援ができるよう努めている。年間行事を作成し外食や地域への行事に参加している。家族支援により外食やお寺や墓参りなど行っている。	利用者の健康状態や天候を見ながら、日常的に散歩や外気浴など支援している。また、地域の行事や季節の花見、関連施設の行事、水族館や初詣、ドライブなど、季節に合わせた外出を数多く年間行事で企画して、可能な限り楽しく外出できるように工夫・支援を行っている。その際には家族や地域のボランティアの協力で、リフト車や車いすを活用している。家族の援助のもとで食事や買い物、墓やお寺参りなども勧めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様・ご家族の方より希望のある方は金銭管理契約が行えるように作成している。買い物同行を行い、自立支援ができるよう関わっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	毎年、年賀状や暑中見舞いなどご家族様や知人へやり取りできるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るい食堂兼居間は台所からの匂いや音が伝わり生活感に溢れている。テレビやラジオの音に配慮し季節の花を常時飾り、季節感を味わっている。空気清浄機や加湿器を設置し空調管理にも努めている。	リビングは明るく解放的で季節の花が置かれており、周囲の壁には手作りの作品や行事の写真などが飾られ、畳のスペースやソファ・椅子も配置されて静かにゆったりと過ごせるように工夫されている。空気清浄機や加湿器も設置され清潔感や空調には細かい配慮が感じられる。利用者にとって不快に感じる音や匂いもなく気持ちよく過ごせる環境である。生活リハビリや運動リハビリのほか、臨床美術や音楽療法、脳活性化の学習なども行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話したり新聞や雑誌を読んだり思い思いに過している。ホールや廊下にソファや椅子を置き自由に好きな場所で過せるように居場所の工夫をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様・ご家族の方と相談しながら使い慣れた家具や仏壇等持参し安心感に繋がっている。ご家族の写真を飾ったり好きな花や本等を持参し楽しみや落ち着いた環境で過せるよう支援している。	日常が本人のペースで居心地よく過ごせるように、使い慣れた身の回りの小物・テレビ・位牌・本・写真・自作の作品などを持ち込んでもらい、家族とも協力しながら環境づくりをしている。居室は明るく、ホームからは洗面台や電動ベッド・押し入れ・エアコン・時計が設置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の方々がその人らしく過せるように状態に応じ職員間で情報交換しながら安全に快適に生活できるよう工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない